

— 決定しました — くすのき賞

市文化協会が地域の文化・芸術活動で活躍する個人や団体に贈る平成16年度の「くすのき賞」が決定しました。

個人

山田美那子さん（林田）

山田さんは、ミュージカルやオペラ、劇の脚本や童話、イラスト、わらべ歌採集など多彩な活動で地域の文化向上に尽くしています。

脚本では、津山城築城400年記念事業「みんなのミュージカル」石の記憶」や勝北《風と光と心の劇場ミュージカル黒媛物語》も手がけるなど美作地方をテーマに、土のにおいのする人間の物語の創作活動を続けています。



団体

県北写真連盟（会長頼本二男さん）

県北写真連盟は、昭和50年に津山市を中心とした写真グループが集まって結成し、活動をスタートしました。グループ間の交流と親睦を深めながら共通の場での写真展や撮影会などの活動で研さんを積み、組織の充実に努めてきました。また、市教育委員会が実施した「みまさかの文化財写真展」の入選作品を整理した「みまさか歳時記」の出版や「津山百景」（山陽新聞社）の撮影にも協力しました。現在は21グループが加入しており、地域での写真文化を培っています。所属団体の枠を超えた活動は県内にも例がなく、連盟による地域を中心とした取り組みの成果が上がっています。

重要文化財の指定

県指定重要文化財

《梵鐘》

市内小田中の安国寺所有の「梵鐘」が3月11日付けで県の重要文化財に指定されました。この梵鐘は、高さ約1m、口径0・62mの日本型の釣鐘で、南北朝時代の永和3年（1377）の年号と百済源次という製作者名が刻まれている由緒ある梵鐘です。



▲梵鐘



▲徳守神社摂社住吉神社本殿

市指定重要文化財

《徳守神社摂社住吉神社本殿》

市教育委員会は、3月24日付けで「徳守神社摂社住吉神社本殿」（宮脇町）を新たに市の重要文化財に指定しました。同本殿は、徳守神社境内の北西に位置する銅板ぶき木造建築物で、17世紀初頭のものといわれています。

様式は、正面が入母屋造、背面が切妻造で、前方にひさしがある「隅木入春日造」と呼ばれるものです。各所に施された簡素な組み物や彫刻などに桃山時代の建築要素が色濃く残っており、市内に残るこの様式の本殿としては、最古の遺構です。

※摂社 本社にゆかりの深い神社で、本社と末社の中間にあたる神社のこと

今回の指定により重要文化財は国指定17件、県指定22件、市指定144件となりました。